

8. 宇治火薬製造所と浄水施設

フェイスブック掲載日 2021/8/4

いつものスロージョギングコース、宇治川堤防の隠元橋を過ぎ、上流方向の宇治浄水場西門あたりの宇治川右岸に高さ2メートルあまりのいかにも古めかしく、もう役割を終えたかのような姿の構造物が建ち残っています。特に表示も無く、何の目的でそこにあるのか分からないまま時間が経過し忘れていましたが、今回、火薬の調査にかかわり、何の目的で建っているのか思い切って宇治浄水場を訪ねました。

応対された職員さんはとても親切丁寧に、「この付近、地下80メートルあたりに宇治川の流れに沿って太いパイプが走っており、その中を宇治川の伏流水が流れています。」「あの構造物は伏流水接合井(せつごうせい)と言って、浄水場へ伏流水を取り込むためのものです。」と説明を受けました。もしや、旧火薬製造所に関わりのある構造物ではないかと期待していた私は、気落ちしながら、「それでは、戦後、浄水場ができたときに作られたものですか?」と尋ねると、「浄水場の土地は国からの借り物であり、地下の太いパイプや伏流水接合井は、戦前に作られた旧火薬製造所の浄水設備の一部で、それも国からお借りして今も使っています。」「伏流水接合井から取り込まれた水は、現在の陸上自衛隊宇治駐屯地関西補給処にある旧火薬製造所の給水塔まで運ばれていました。」この説明を聞き、私は、「見込み通り、期待外れでなかった」、「ここにも宇治火薬にまつわる戦跡がひっそりと佇んでおり、今も現役で伏流水を浄水場へ送っているんだ」と、誰も気がついていないことを発見したような気持ちになりました。

さっそく自宅に戻り、もう少し詳しく宇治浄水場のことを調べようと、宇治市のホームページを繰っていると、「宇治浄水場～飲み水・水道水ができるまで」というパンフレットがあり、開いてみると、「伏流水接合井」の写真や「宇治浄水場の成り立ち」のページに、「昭和25年(1950年)4月に旧陸軍が火薬製造所の水道として造った浄水場等の施設を借りて、宇治川の伏流水を原水に水道水を配ったのが最初」と、はっきり書かれているではありませんか! 自分の勉強不足に、また少しがっかりしながらも、私にとっては火薬調査の1ページが加わったんだ、と納得しています。



◎ 伏流水接合井「ふくりゅうすいせつごうせい」

宇治浄水場の成り立ち

Q. 宇治浄水場が最初にできたのは？

A. 昭和25年(1950年)4月に旧陸軍が火薬製造所の水道として造った浄水場等の施設を借りて、宇治川の伏流水を原水に水道水を配ったのが最初です。



Q. 宇治浄水場が今の形になったのは？

A. 昭和52年(1977年)に管理棟や深井戸2本、沈殿池1池、急速ろ過機3台等が造られ、昭和55年(1980年)に、汚泥処理設備などができ、今の浄水場が完成しました。